

## 安全データシート

作成日:2022年5月6日

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称  
会社名  
住所  
電話番号

ヘキサフルオロけい酸ナトリウム  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
BD0074

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分3  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分3  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分2A  
特定標的臓器毒性: 区分2(心臓)  
(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(骨)  
水生環境有害性 短期(急性): 区分3  
水生環境有害性 長期(慢性): 区分3

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

飲み込むと有毒  
軽度の皮膚刺激  
強い眼刺激  
心臓の障害のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
長期又は反復ばく露による骨の障害  
水生生物に有害  
長期的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。  
環境への放出を避けること。  
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
【応急措置】  
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。  
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。  
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。  
皮膚に付着した場合、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを求めること。  
ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
吸入した場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
【保管】  
容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。  
【廃棄】  
内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名  
別名  
化学式  
化学物質を特定できる一般的な番号  
含有量  
官報公示整理番号(化審法、安衛法)

化学物質  
ヘキサフルオロけい酸ナトリウム  
けいフッ化ナトリウム, 六フッ化ケイ酸ナトリウム  
 $\text{Na}_2\text{SiF}_6$   
CAS RN: 16893-85-9  
99%以上  
(1)-334 / 1-(3)-200

4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水と石鹼で洗うこと。
飲込んだ場合	皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
	口をすすぐこと。
	直ちに医師に連絡すること。
	吸入：灼熱感、咳、咽頭痛。「経口摂取」参照。
	皮膚：発赤、痛み。
	眼：発赤、痛み。
	経口摂取：胃痙攣、灼熱感、吐き気、嘔吐。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
	関係者以外の立入りを禁止する。
	作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
	立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気等)	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
	取扱い後はよく手を洗うこと。
	飲み込みを避けること。
	眼に入れないこと。
	環境への放出を避けること。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管	
安全な保管条件	強酸から離して保管する。
	冷所、換気の良い場所で保管すること。
	容器を密閉して保管すること。
	施錠して保管すること。
容器包装材料	ポリプロピレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TWA 2.5 mg/m <sup>3</sup> (Fとして)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
	高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
目の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	白色の粉末
臭い	無臭
融点/凝固点	448-452°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	該当情報なし
燃焼性	該当情報なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし
引火点	該当情報なし
自然発火温度	該当情報なし
分解温度	800°C以上
pH	該当情報なし
動粘性率(粘度)	該当情報なし
溶解度	水 : 7.6g/L (25°C)
n-オクタノール/水分係数	該当情報なし
蒸気圧	該当情報なし
密度及び/又は相対密度	2.7g/cm <sup>3</sup>
相対ガス密度	該当情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	加熱すると分解し、フッ素を含む腐食性のヒュームを生じる。 濃酸と反応し、腐食性のフッ化水素を生じる。
避けるべき条件	加熱。食品、飼料から離しておく。
混触危険物質	強酸
危険有害な分解生成物	フッ素を含む腐食性のヒューム、腐食性のフッ化水素
11. 有害性情報	
急性毒性	経口：ラットを用いた経口投与試験のLD <sub>50</sub> 値125mg/kg(RTECS, 2003; IUCLID, 2000; HSD, 2003)に基づき、区分3とした。 経皮：該当情報なし 吸入：該当情報なし (粉塵)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ヒト皮膚を刺激する、発赤、痛みとの記述(ICSC, 1994; SITTING, 2002)及びウサギ皮膚を中程度刺激と弱い充血との記述(RTECS, 2003; IUCLID, 2000)から、軽度刺激性があると考え、区分3とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ヒト眼を刺激する、発赤、痛みとの記述(ICSC, 1994; SITTING, 2002)及びウサギ眼を激しく刺激と角膜への障害との記述(RTECS, 2003; IUCLID, 2000)から、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器：該当情報なし 皮膚：該当情報なし
生殖細胞変異原性	In vivo変異原性試験の結果はなく、in vitro変異原性試験(Ames test)は陰性との結果(IUCLID, 2000)から、データ不足のため分類できないとした。
発がん性	ACGIH-TLV (2005)ではフッ化物をA4(区分外相当)に分類しているが、データ不足のため分類できないとした。
生殖毒性	MAK/BAT (2005)ではフッ化物には発生毒性がないとしているが、データ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	Priority 2文書のICSC(1994)において「カルシウム代謝に影響を与え、心臓障害を生ずる」との記述から区分2(心臓)とした。また、Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではフッ化物には気道刺激があるとしていること、加えてpriority 2文書のICSC(1994)において「気道を刺激する」との記述から、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではフッ化物には骨への影響(フッ素症)があるとしていること、加えてpriority 2文書のICSC(1994)において「骨に影響を与えフッ素沈着症を生じる」との記述から、区分1(骨)とした。
誤えん有害性	該当情報なし
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期：魚類(ブルーギル)の96時間LC <sub>50</sub> =49000 µg/L(AQUIRE, 2003)から、区分(急性)3とした。 長期：急性毒性が区分3、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、(慢性)区分3とした。
残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	

残余廃棄物

汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公  
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準  
に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

#### 14. 輸送上の注意

国連番号

2674

品名(国連輸送名)

Sodium fluorosilicate

国連分類

6.1

容器等級

III

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように  
積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送

消防法の規定に従う。

海上輸送

船舶安全法の規定に従う。

航空輸送

航空法の規定に従う。

応急措置指針番号

154

#### 15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

指定化学物質に該当しない。

毒物及び劇物取締法

劇物

消防法

貯蔵等の届出を要する物質

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔ケイフッ化ナトリウ  
ム〕[施行令別表9]  
(2025年(令和7年4月1日)以降)

危険性又は有害性を調査すべき物〔ケイフッ化ナトリウム〕  
(2025年(令和7年4月1日)以降)

水質汚濁防止法

有害物質

土壤汚染対策法

特定有害物質

船舶安全法

毒物類・毒物

航空法

毒物類・毒物

港則法

毒物類・毒物

労働基準法

疾病化学物質

#### 16. その他の情報

参考文献

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

16615の化学商品(化学工業日報社)

職場のあんぜんサイト(厚労省HP)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではあり  
ません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等  
に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありません  
ので取り扱いには十分注意して下さい。